

(平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日)

平成 27 年度事業は、当初の事業計画ならびに予算案に基づいて次のように行われた。

1. 会員数

平成 27 年 8 月 31 日現在の会員数は次のとおりである。[専門分野別会員数集計表 () は前年度数]

会員数:H27.8.31 現在 () は H26.8.31 の数

平成27年8月31日 現在の会員数

会員種別	医・歯	理	農・工	薬	他	計
名誉会員－国内	36 (34)	11 (10)	7 (8)	13 (14)	1 (1)	68 (67)
名誉会員－国外	-	-	-	-	79 (80)	79 (80)
永年会員	5 (5)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (9)
評議員	324 (323)	193 (193)	131 (128)	141 (138)	5 (7)	794 (789)
正会員	1,788 (1,923)	1,600 (1,753)	1,014 (1,133)	1,204 (1,302)	217 (241)	5,823 (6,352)
学生会員	147 (168)	281 (288)	282 (287)	198 (207)	3 (4)	911 (954)
小計	2,300 (2,453)	2,087 (2,248)	1,434 (1,556)	1,556 (1,661)	305 (333)	7,682 (8,251)
異動数	-153	-161	-122	-105	-28	(前年比 -569)
賛助会員					90口 (94)	62社 (65)
団体会員						164団体 (175)
総計						7,908 (8,491) (前年比 -583)

H27.8.31 支部別会員数 () は H26.8.31 の数

支部名	会員数(名)	%
北海道	239 (261)	3.1%
東北	506 (518)	6.7%
関東	2,942 (3,197)	38.7%
北陸	203 (224)	2.7%
中部	695 (758)	9.1%
近畿	1,632 (1,760)	21.5%
中国・四国	709 (730)	9.3%
九州	677 (723)	8.9%
計	*7,603 (8,171)	100.0%

註：除・外国人名誉会員

2. 会議

会務運営のために行われた主な会議の開催状況は

以下のとおりである。

定例理事会	10月,4月,8月	3回
定例常務理事会	2月,4月,7月,8月	4回
JB編集委員会	10月,4月	2回
生化学誌企画委員会	12月,6月	2回
各種授賞等選考委員会	7月	1回

3. 研究発表会、講演会等

(1) 第 87 回大会

日時：平成 26 年 10 月 15 日～18 日

場所：国立京都国際会館

会頭：米田 悦啓

特別講演 3 題、ポスター1,450 題、シンポジウム
73 題、口頭 542 題、バイオインダストリーセミナー
9 題、フォーラム 14 題、Late-Breaking Abstracts
124 題

参加登録者：3,044 名 (内 学生 938 名)

*他に参加費免除学生 324 名、招待者 269 名

(2) 第 52 回総会

日時：平成 26 年 11 月 28 日

会場：東京ガーデンパレスホテル

(3) 各支部の集会は次のとおりである。

平成 27 年度 平成 26 年度

北海道支部	2	1
東北支部	1	1
関東支部	1	1
中部支部	1	1
北陸支部	1	1
近畿支部	1	1

中国・四国支部	1	1
九州支部	1	1

各支部における学術活動は活発であり、多くの支部でシンポジウムを開催した。

4. 研究業績の表彰、奨励

平成 27 年度奨励賞、JB 論文賞、柿内三郎記念特別賞、柿内三郎記念奨励研究賞および柿内三郎記念賞の受賞者は以下のとおりである。

日本生化学会奨励賞

浅野竜太郎、大戸 梅治、杉島 正一、田口 恵子、松島 綾美

JB 論文賞 (第 24 回)

山田 大祐 他 9 名、羽生 未佳 他 12 名、佐藤 大輔 他 7 名、Jayasha Shandilya 他 7 名、中木戸 誠 他 3 名、相川 順一 他 3 名

柿内三郎記念特別賞

香川 靖雄

柿内三郎記念奨励研究賞 (第 12 回)

池ノ内順一

柿内三郎記念賞 (第 10 回)

藤木 幸夫

5. 会誌等

(1) 会誌発行状況は以下のとおりである。

○生化学 ※偶数月の隔月発行 (6 回/年)

	総頁	論文数	総説	MR	TN	その他
第 86 卷 H26.1~6	826	144	50	58	2	34
第 87 卷 H27.1~4	498	99	36	38	0	25

*支部編集による特集号は好評を博している。

**編集企画協力委員には非会員の参画も要請し、幅広い企画の立案に努めている。

○The Journal of Biochemistry

	Pages	No. Paper	Reg. P	Comm- mun.	Rev/ Minirev.	Ref. & Others
Vol. 155, 156 2014	776	76	58	0	17	1
Vol. 157, 158 (Jan.-Aug) 2015	749	72	52	1	19	0

*2014 年の Impact Factor は 2.582 となり対前年比 -0.491 ポイントであった。

(2) 各月の配布状況は以下のとおり。

	生化学	JB
個人会員	488	125
団体会員	164	94
賛助会員	62	62
商社・書店	136	200
交換・寄贈・保管等	150	319
計	1,000	800

6. 学術集会の企画

平成 27 年度バイオフィロンティアシンポジウム 1 件を決定した。

7. 関連諸会議・学協会との連携および協力

- (1) 平成 26 年 10 月に Taipei で開催された FAOBMB に代表を派遣した。
- (2) 平成 27 年 8 月に Brazil で開催された IUBMB に代表を派遣した。
- (3) 男女共同参画学協会連絡会、生物科学学会連合の会員として活動した。
- (4) 日本学術会議、日本学術振興会、日本医師会、日本医学会などの調査に協力した。

8. 学術活動の援助

次の 9 件の学術集会を援助し、それぞれ盛会であった。

- (1) 北海道支部「生命現象の分子レベルでの解明」(11 月)
- (2) 東北支部「思いもしなかった、がん研究の新展開」(5 月)
- (3) 関東支部「平成 27 年度関東支部例会/第 56 回新潟生化学懇話会」(6 月)
- (4) 北陸支部「病原性ウイルス・免疫応答研究の最前線」(5 月)
- (5) 中部支部「“知の森”の創成と深化を目指して」(5 月)
- (6) 近畿支部「生化学から先端生命科学へのゲートウェイ」(5 月)
- (7) 中国・四国支部「生化学の中の構造解析」(5 月)
- (8) 九州支部「極限環境で働く生体分子の生化学」(5 月)
- (9) 生化学若い研究者の会「第 55 回生命科学夏の学校」(8 月)

- (10) 第13回 JBS バイオフロンティアシンポジウム：
第6回ホスホリパーゼ A₂・脂質メディエーター
国際会議（PLM2015）
（平成27年2月10日～12日）

9. 委員会の活動

(1) 情報専門委員会

ウェブページの改修を行い、英語サイトをリニューアルした。

(2) 男女共同参画推進委員会

第87回大会時にランチョンワークショップ
「Research Workforce への女性の参画促進：応募
する気・採る気にさせるには」を開催した。

(3) 研究倫理委員会

行動規範と倫理規程を制定した。

(4) 各種授賞等選考委員会

本会奨励賞および JB 論文賞、公益財団法人倶進会
による「柿内三郎特別賞」「柿内三郎記念賞」「同奨
励研究賞」の選考を行った。また、他財団への賞・助
成に対し、候補者募集の周知をはかり、選考、学会
推薦をおこなった。